

沼垂のまちなみ ④本町エリア

小路でめぐる 沼垂四ツ角界隈

栗ノ木川は栗ノ木通・長嶺通とも呼ばれ、川幅約40mもの舟運の大動脈で、沼垂の町中の堀は栗ノ木川に通じていました。



昔の栗ノ木川と沼垂大橋写真



現在の栗ノ木バイパス

栗ノ木川を挟む道筋「東横町」と「西横町」を結ぶ「大橋」は江戸後期までは栗ノ木川に架かる唯一の橋で、大変繁華でした。現在の万代町通と栗ノ木バイパスの交差点に当たります。

沼垂町の主な町名の変遷(※すべての町名は表示していません)

年代	東ノ木川 上ノ木通・東側	東ノ木川 下ノ木通・東側	古町	東ノ木川 下ノ木通・西側
貞享元年(1684)	石町一ノ丁目 二ノ丁目	本町一ノ丁目 二ノ丁目	古一ノ町 二ノ町(駒形町)	古三ノ町 古四ノ町 古五ノ町
宝永7年(1710)	上二ノ町 上四ノ町	五ノ町 六ノ町	東片原町 西片原町	新地町 吉町町 東龍ヶ島町
文政1(1814)	七ノ町	東龍ヶ島町	東片原町	新地町 吉町町 東龍ヶ島町
明治30(1897)	上二ノ町 上四ノ町	東龍ヶ島町 五ノ町	西片原町	西龍ヶ島町 東龍ヶ島町
昭和4(1929)	東龍ヶ島町 五ノ町	東龍ヶ島町 五ノ町	西片原町	西龍ヶ島町 東龍ヶ島町

※新編歴史要覧 沼垂の地名と歴史、「沼垂市合併町制の歴史第3集」参照

沼垂町では、上二ノ町・西龍ヶ島町・古一ノ町・古橋町など江戸時代にできた町の名が、昭和43年(1968)の町名改正まで通称されていました。



沼垂には各町が灯籠を出し練り歩き、四ツ角でぶつけあう祭りがあります。その灯籠には、昔の町名が書かれているんですよ。

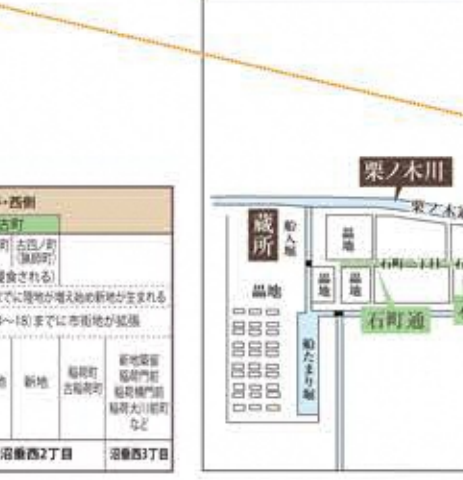


昔の沼垂四ツ角(上)と現在の沼垂四ツ角(下)



2013年頃の沼垂四ツ角

貞享元年(1684)「沼垂町割絵図」(部分)



10 孫助小路(まごすけこうじ):大正期の地図に孫助小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



11 御屋敷小路(おやしきこうじ):江戸時代、この小路の下手に新発田藩の支配役所(御旅屋ともいう)があったことから、この名で呼ばれた。明治初期の絵図には元御旅屋小路と記されている。



12 小甚の小路(こじんのこうじ):この小路の上手に小甚という料理屋が昭和初期まであったことから、この名が付いたと思われる。



大正14年築のもと床屋さんの建物

カッコいい建物、きれいな花。小路に入ると思いがけない景色に出会えるよ。



13 朗小路(ろうこうじ):明治初期の地図にはニケン小路とある。昭和初期に朗小路に改称された。



14 八平小路(はちべいこうじ):明治初期の絵図には、小路の角に渡辺八平の屋敷が記されていることから、その名前が名の由来と思われる。



沼垂のまちなみ

⑤旧沼垂駅前界隈 西・東龍ヶ島エリア

文政8年(1825)、沼垂町は栗ノ木川の東側の龍ヶ島一帯を買い上げて造成を開始し、西龍ヶ島・東龍ヶ島の2本の通りと、西龍ヶ島堀・東龍ヶ島堀の2本の堀を作りました。明治30年(1897)11月には、この龍ヶ島地内に北越鉄道(後の信越線)の沼垂駅が現市域初の駅として開業します。駅前(現沼垂東6)は芳原町(吉原町)、日吉町と通称される新開地となり、周辺には石油精製や製紙会社などの大工場が進出しました。

大正3年(1914)に沼垂町と新潟市が合併、昭和33年(1958)沼垂駅は旅客営業をやめ貨物駅となり、平成22年(2010)に廃止されました。周辺には駅前当時の名残が残されています。

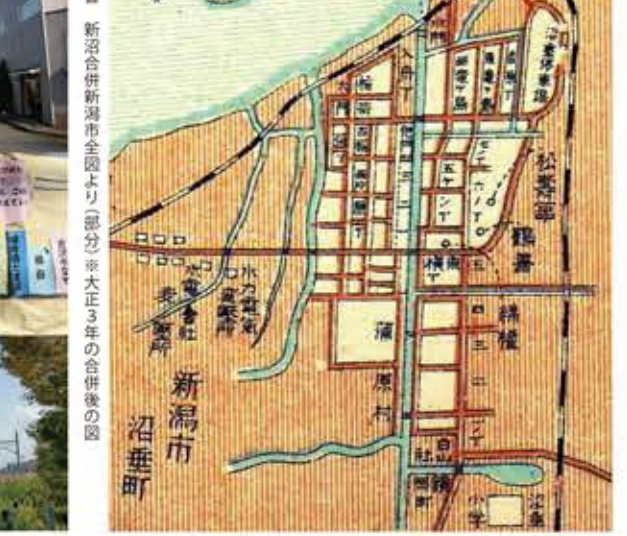


かつての沼垂駅



駅前・日吉町

いい雰囲気のスロートがあるニャ。ついて来てニャー。



沼垂市合併町制の歴史第3集より部分※大正3年の合併後の図